第６章　人的要因別火災状況

１　高齢者

○　高齢者が行為者となった火災は前年に比べて増加し、火災による死者及び負傷者も増加。

(1)　火災状況

ここでいう「高齢者の火災」とは、65歳以上の高齢者が行為者となった火災をいいます。

令和７年９月15日現在、全国の65歳以上の高齢者の人口は、推計で前年同月よりも５万人少ない3,619万人で、日本総人口の29.4％を占めています（総務省調べ）。

また、令和７年９月15日現在、東京都内に住む高齢者は、東京都の総人口の23.4％にあたる312万人となっています（東京都調べ）。

ア　年別火災状況

最近10年間の高齢者の火災の発生状況をみたものが表6-1-1、年別火災状況と高齢者の火災の割合をみたものが図6-1-1です。

表 6-1-1　年別火災状況（最近10年間）

年別	火災種別 合計	建物 小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	林野	車両	船舶	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
28年	482	434	18	22	76	318	－	19	－	29	3,744	1,205	582,696	36	243
29年	568	511	26	25	97	363	－	15	－	42	5,379	1,746	1,064,526	35	208
30年	557	484	17	27	107	333	1	22	1	49	5,623	1,577	1,035,636	44	201
元年	536	479	23	22	96	338	－	19	－	38	4,519	1,516	791,417	50	192
2年	501	448	18	18	87	325	1	21	－	31	3,271	1,469	691,148	29	179
3年	541	483	25	31	83	344	3	19	－	36	6,435	2,824	1,064,242	39	193
4年	522	470	22	24	64	360	－	15	－	37	4,829	1,954	880,090	42	211
5年	580	519	17	26	113	363	1	15	－	45	5,554	2,305	1,021,338	46	213
6年	525	479	20	13	70	376	1	14	－	31	4,552	1,518	678,786	32	192
7年	**633**	**555**	**30**	**25**	**88**	**412**	**－**	**19**	**－**	**59**	**6,438**	**2,270**	**1,355,218**	**47**	**222**

○　行為者が高齢者の火災は633件発生し、最近10年間で最多。

○　火災による死傷者をみると、死者が47人（前年比15人増加）発生し、負傷者は222人（前年比30人増加）発生。

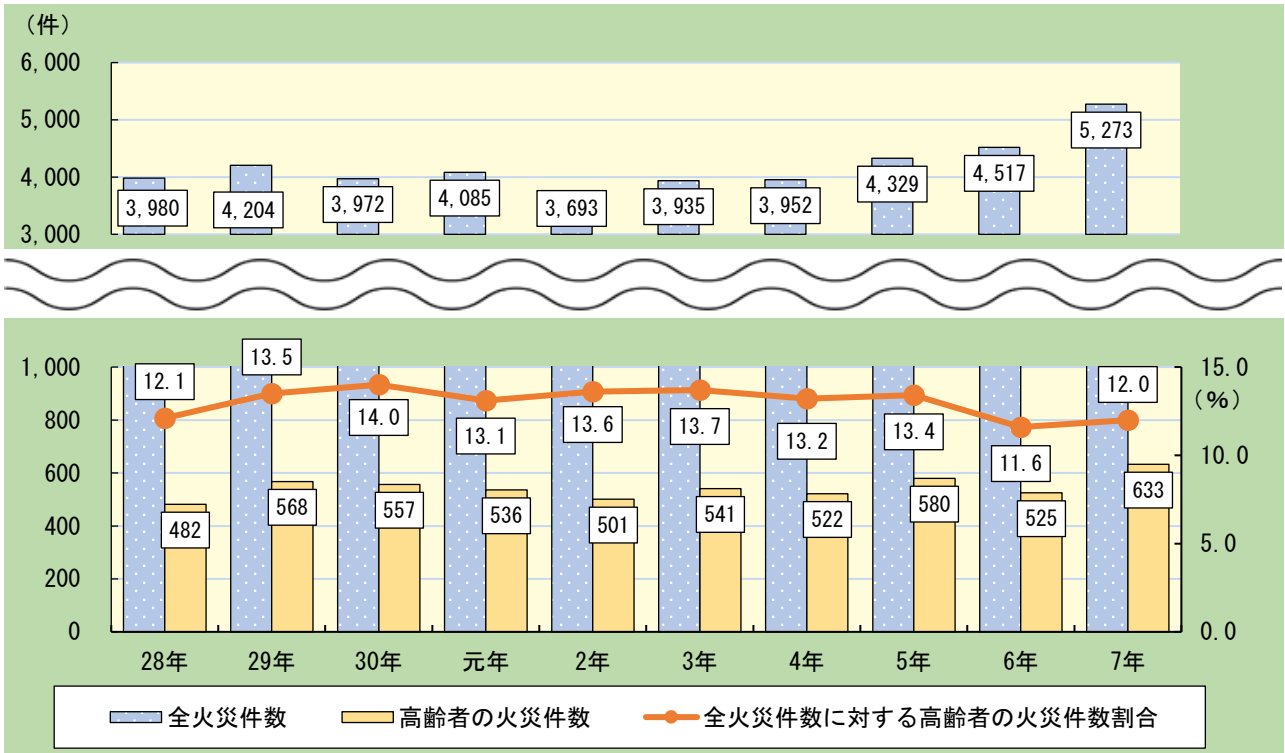


図 6-1-1　年別火災状況と高齢者の火災の割合（最近10年間）

注　火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

○　全火災件数に対する高齢者の火災件数割合は 12.0%を占め、前年と比べて 0.4 ポイント増加。

イ　高齢者の火災の月別発生状況

高齢者の火災の月別発生状況をみたものが表 6-1-2 です。

表 6-1-2　高齢者の火災の月別発生状況

年齢区分		月 / 合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火災件数		5,273	492	499	463	391	370	387	396	404	395	447	449	580
火災件数の高齢者	小計	633	73	67	60	52	47	44	45	31	32	47	58	77
	前期	238	24	21	18	23	19	22	15	15	11	20	23	27
	後期	395	49	46	42	29	28	22	30	16	21	27	35	50
発生率（%）		12.0	14.8	13.4	13.0	13.3	12.7	11.4	11.4	7.7	8.1	10.5	12.9	13.3

注１　火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。
　２　発生率は、火災件数のうち高齢者の火災が占める割合を示したものです。

○　高齢者の火災件数のうち、火災が多発する時期（１月から３月及び 12 月）をみると、277 件（43.8%）発生し、その中でも 12 月は 77 件（13.3%）と最多。
○　年齢区分別では、前期高齢者が 238 件（37.6%）、後期高齢者が 395 件（62.4%）発生。

ウ　時間別発生状況

時間別発生状況をみたものが図 6-1-2 です。

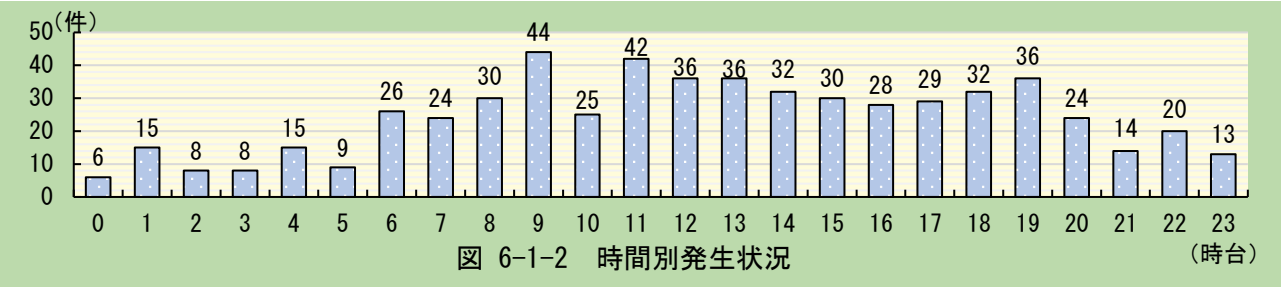


図 6-1-2　時間別発生状況

注　高齢者の火災の時間別発生状況は、出火時分が不明（51 件）の火災を除いています。

○　出火時分が不明の 51 件を除いた 582 件をみると、１日を通じて最も多く高齢者の火災が発生している時間帯は 9 時台で 44 件（7.6%）発生。

エ　建物用途別発生状況

行為者とその年齢が判明している建物から出火した火災 2,416 件を居住関係(住宅･共同住宅)と居住関係以外に分けたものが表 6-1-3 です。

表 6-1-3　居住用途別建物火災発生状況

区分	建物から出火した火災件数	居住関係				居住関係以外
		小計	住宅	共同住宅等	居住関係からの発生率（%）	
合計	2,416	1,569	522	1,047	64.9	847
高齢者以外の火災	1,874	1,123	319	804	59.9	751
高齢者の火災	542	446	203	243	82.3	96

○　行為者が高齢者で建物から出火した火災 542 件をみると、居住関係の用途は 446 件（82.3%）発生し、高齢者以外の火災より 22.4 ポイント高い。

⑵　出火原因別発生状況

高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況をみたものが表 6-1-4 です。

表 6-1-4　高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況

区分		合計	主な出火原因											
			ガステーブル等	たばこ	放火（疑い含む）	大型ガスこんろ	差込みプラグ	電気ストーブ	コード	コンセント	ロウソク	溶接器	大型ガスレンジ	その他
合計		2,882	350	294	113	107	71	71	56	44	38	29	28	1681
高齢者以外		2,249	233	211	81	87	50	38	39	35	21	27	24	1403
高齢者	小計	633	117	83	32	20	21	33	17	9	17	2	4	278
	前期高齢者	238	32	38	9	11	7	7	6	4	5	1	2	116
	後期高齢者	395	85	45	23	9	14	26	11	5	12	1	2	162
高齢者の割合（%）		22.0	33.4	28.2	28.3	18.7	29.6	46.5	30.4	20.5	44.7	6.9	14.3	16.5

注　全火災件数 5,273 件（治外法権火災及び管外からの延焼火災を除く。）のうち、行為者とその年齢が判明している火災 2,882 件の値になります。

○　行為者が高齢者である主な出火原因別の上位３位をみると、「ガステーブル等」が 117 件（18.5%）、で最多。次いで「たばこ」が 83 件（13.1%）、「放火（疑い含む）」が 32 件（5.1%）発生。

⑶　発見・通報・初期消火等の状況

ア　発見・通報・初期消火状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災 542 件の火災発見者及び通報者についてみたものが表 6-1-5、初期消火が行われた火災 370 件の初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態をみたものが表 6-1-6 です。

表 6-1-5　発見者及び通報者の状況

区分	合計	行為者	出火した住戸の居住者	近隣者	同一建物居住者	出火した事業所勤務員	通行人	上記関係以外の者	同一敷地居住者	上記以外来者	同一建物勤務員	その他
発見者	542	172	156	45	35	31	28	17	11	9	8	30
通報者	542	71	107	88	72	14	51	30	6	16	20	67

表 6-1-6　初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態

区分	合計	出火した器具又は着火物が燃焼中	立ち上がり材が燃焼中	二次的着火物が燃焼中	出火室内が延焼拡大中	天井等に火炎が達した状態で延焼中	火元建物が炎上中	隣家へ延焼中	その他・不明
合計	370	256	47	24	6	5	2	1	29
消火成功	282	211	31	16	－	1	－	－	23
消火失敗	88	45	16	8	6	4	2	1	6
成功率（%）	76.2	82.4	66.0	66.7	0.0	20.0	0.0	0.0	79.3

注　行為者が高齢者で建物から出火した火災 542 件のうち、初期消火が行われた 370 件の値になります。

○　発見は、「行為者」が 172 件（31.7%）と最多。次いで「出火した住戸の居住者」が 156 件（28.8%）など。
○　通報は、「出火した住戸の居住者」が 107 件（19.7%）で最多。次いで「近隣者」が 88 件（16.2%）など。
○　初期消火に成功した 282 件（76.2%）のうち、消火時の火災の状態別でみると、「出火した器具又は着火物が燃焼中」で消し止めたものが 211 件で（74.8%）と７割以上を占める。

イ　避難状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災542件のうち､避難行動があったものは102件(18.8%)です。そのうち、避難に支障があった 13 件の支障理由をみたものが表 6-1-7 です。

表 6-1-7　避難上の支障理由

区分	避難上支障があった火災件数	死者数	負傷者数
合計	13	5	14
廊下が火煙で利用できず	3	2	2
老人幼児災害弱者等自力避難困難	3	－	3
火災に気付くのが遅かった	3	1	3
避難方法が分からなかった	1	1	1
その他	3	1	5

○　避難に支障があった火災は 13 件（12.7%）で、出火階の直上階、出火階及び出火階の直下階で発生。死者が５人、負傷者は 14 人発生。

2　工事関係者等による火災

○　前年と比べ火災件数は増加し、最近 10 年で最多。
○　作業区分別にみると、溶接関係が 26 件で最多、次いで電気作業関係が 14 件発生。

(1)　火災状況

「工事」の火災とは、工事現場、工事中の建物から出火した火災や、工事に関連して発生した火災をいいます。また、工事に関係した火源により、工事現場以外の場所から出火した火災（以下「近隣火災」という。）も含みます。

ア　年別火災状況

工事火災の年別火災状況をみたものが表 6-2-1 です。

表 6-2-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災種別									損害状況				
	合計	建物					車両	船舶	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや								
28年	82	45	2	2	10	31	3	－	34	1,001	655	819,127	－	15
29年	98	58	1	1	9	47	1	－	39	359	128	95,818	－	28
30年	96	55	－	1	11	43	2	－	39	700	5,256	2,467,340	5	81
元年	102	57	－	2	15	40	2	－	43	997	342	2,274,208	3	30
2年	88	40	2	1	12	25	2	－	46	2,865	482	1,867,839	－	21
3年	100	55	1	－	13	41	1	－	44	143	120	39,142	－	4
4年	85	45	2	－	6	37	1	2	37	349	79	205,396	2	10
5年	72	37	1	－	13	23	1	－	34	77	446	219,297	－	16
6年	91	46	1	3	14	28	－	－	45	951	286	69,126	－	21
7年	118	74	－	1	11	62	2	－	42	172	713	204,218	－	38

○　令和 7 年中は 118 件発生し、前年と比べて 27 件増加。そのうち建物火災は 74 件(62.7%)発生。
○　焼損床面積は前年より 779 ㎡減少し、焼損表面積は 427 ㎡増加。
○　死者は発生していないが、傷者は前年と比べて 17 名増加。

イ　工事別発生状況

工事現場から出火した火災 118 件の作業区分別の工事種別についてみたものが表 6-2-2、火災と作業との関係がない建物火災の出火原因別の工事種別をみたものが表 6-2-3 です。

表 6-2-2　作業区分別の工事種別

作業区分	工事種別 合計	建物工事 小計	新築工事	改装工事	解体工事	補修工事	設備工事 小計	電気工事関係	管工事	機械器具設備工事	その他の設備工事	その他の土木工事	その他の工事
合計	118	95	44	25	19	7	15	13	1	1	－	3	5
溶接・溶断作業	26	24	7	1	15	1	1	－	－	1	－	－	1
電気作業	14	3	1	2	－	－	11	11	－	－	－	－	－
塗装作業	11	10	1	5	－	4	－	－	－	－	－	1	－
床張り・壁張り作業	5	5	2	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－
配管作業	2	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	1
掘削作業	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
その他	16	11	3	6	1	1	－	－	－	－	－	2	3
火災と作業との関係なし	43	41	29	8	3	1	2	2	－	－	－	－	－

表 6-2-3　出火原因別の工事種別

出火原因	工事種別 合計	建物工事 新築工事	改装工事	解体工事	補修工事
合計	41	29	8	3	1
放火（疑い含む）	16	15	1	－	－
たばこ	3	3	－	－	－
充電式電池	3	1	1	1	－
不明・その他	19	10	6	2	1

注　「火災と作業との関係なし」の 43 件のうち建物工事から発生した火災 41 件をみたものになります。

○　建物工事の火災 95 件（80.5%）を、作業区分別にみると、溶接・溶断作業が 24 件（25.3%）で最多、そのうち工事種別では解体工事が 15 件（62.5%）で６割以上を占める。

○　設備工事の火災は 15 件（12.7%）発生し、作業区分別にみると、電気工事関係が 13 件（86.7%）で最多。

○　火災と作業との関係がない建物工事火災における出火原因別の工事種別をみると、41 件のうち 16 件（39.0%）が放火（疑い含む）により出火。

⑵　出火原因

ア　主な出火原因

主な出火原因と作業区分についてみたものが、表 6-2-4 です。

表 6-2-4　主な出火原因別と作業区分

出火原因		作業区分 合計	溶接・溶断作業	電気作業	床張り・壁張り作業	塗装作業	配管作業	掘削作業	その他	火災と作業との関係なし
合計		118	26	14	5	11	2	1	16	43
溶接関係	小計	24	23	－	－	－	－	－	－	1
	アセチレンガス切断器	8	8	－	－	－	－	－	－	－
	電気溶接器	8	7	－	－	－	－	－	－	1
	ガス切断器	6	6	－	－	－	－	－	－	－
	溶融片	2	2	－	－	－	－	－	－	－
電気設備機器関係	小計	40	1	14	3	3	1	－	8	10
	屋内線	8	－	5	1	1	－	－	－	1
	充電式電池	4	－	－	－	－	－	－	1	3
	テーブルタップ	3	－	－	－	－	1	－	1	1
	洗浄機	2	－	－	1	－	－	－	1	－
	分電盤	2	－	1	－	－	－	－	1	－
	太陽光発電装置	2	－	2	－	－	－	－	－	－
	変電設備内配線	2	－	2	－	－	－	－	－	－
	その他の電気製品	17	1	4	1	2	－	－	4	5
工事機器関係	小計	9	2	－	－	2	－	－	4	1
	研磨機（グラインダ含む）	2	2	－	－	－	－	－	－	－
	ガスバーナー	2	－	－	－	1	－	－	1	－
	電気のこぎり	2	－	－	－	－	－	－	1	1
	ブタンガストーチバーナ	1	－	－	－	1	－	－	－	－
	投込湯沸器	1	－	－	－	－	－	－	1	－
	ガスハンドトーチ	1	－	－	－	－	－	－	1	－
放火		17	－	－	－	－	－	－	1	16
たばこ		4	－	－	－	－	－	－	－	4
その他		9	－	－	1	3	1	－	1	3
不明		15	－	－	1	3	－	1	2	8

○　出火原因別では「電気設備機器関係」が 40 件（33.9%）で最多。次いで、「溶接関係」が 24 件（20.3%）発生。

イ　作業区分別発生状況

最近５年間の作業区分別火災状況をみたものが表 6-2-5 です。

表 6-2-5　作業区分別発生状況（最近５年間）

年別	合計	作業区分								
		溶断作業・溶接	電気作業	塗装作業	掘削作業委	壁張り作業・床張り	配管作業	等の溶解作業アスファルト	その他	作業関係なし
３年	100	32	17	7	4	4	1	1	18	16
４年	85	30	9	1	5	3	3	1	10	23
５年	72	30	5	2	1	2	2	1	10	19
６年	91	31	14	4	1	5	3	－	17	16
７年	**118**	**26**	**14**	**11**	**1**	**5**	**2**	**－**	**16**	**43**

ウ　溶接・溶断作業

溶接・溶断作業の火災 26 件のうち、火花が飛散、落下することによって発生した火災 25 件着火物についてみたものが表 6-2-6、着火物までの飛散距離をみたものが表 6-2-7 です。

表 6-2-6　溶接・溶断作業の着火物

着火物		件数
合計		25
合成樹脂	合成樹脂成型品	7
くず類	ごみくず・紙くず等	5
可燃性固体	断熱材	3
不明・その他	廃材・木材・枯草等	10

表 6-2-7　着火物までの飛散距離

飛散距離	件数
合計	22
50 cm 未満	4
50 cm 以上 1 m 未満	1
1 m 以上 2 m 未満	3
2 m 以上 5 m 未満	7
5 m 以上	7

注　飛散距離が不明の 3 件を除く。

エ　作業関係以外の出火原因

放火の出火箇所と着火物をみたものが表 6-2-8 です。

表 6-2-8　放火の出火箇所と着火物の状況

出火箇所		着火物								
		合計	合成樹脂	ごみくず	ダンボール	紙製品	ポスター	衣類	断熱材	立木
合計		17	7	3	2	1	1	1	1	1
建物	工事中の建物等	13	4	3	2	1	1	1	1	－
建物以外	敷地内等	4	3	－	－	－	－	－	－	1

○　「溶接・溶断作業」で火花が飛散することにより出火した火災の着火物は「合成樹脂成型品」が７件(28.0%)発生。

3　着衣着火

○　建物火災のうちの 64 件（98.5%）がぼや火災。令和７年は５人の死者が発生し、死者の発生率は、前年と比べると 2.7 ポイント上昇。

(1)　火災状況

着衣着火火災とは、何らかの火源により人の意志に反して、身につけている衣類に着火した火災をいいます。例えば、調理中のガステーブルの火や灯明*の火が衣類の袖口に着火するなどの火災が該当します。

着衣着火火災の年別火災状況をみたものが表 6-3-1 です。

表 6-3-1　年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災種別 合計	建物 小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	車両	船舶	その他	損害状況 焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	損害額（千円）	死者	負傷者	死者発生率（%）
28 年	65	59	－	－	1	58	1	－	5	－	1	575	7	66	10.8
29 年	56	52	1	1	2	48	－	－	4	83	57	13,011	4	54	7.1
30 年	52	47	－	1	2	44	－	－	5	38	7	40,660	4	47	7.7
元年	68	65	－	－	1	64	－	－	3	10	40	640	3	62	4.4
2 年	76	64	－	－	1	63	－	－	12	－	2	513	4	71	5.3
3 年	52	43	－	－	1	42	－	－	9	10	18	3,070	1	53	1.9
4 年	57	47	－	－	－	47	－	－	10	－	－	99	3	57	5.3
5 年	61	56	－	－	1	55	－	－	5	30	37	2,971	4	60	6.6
6 年	73	59	1	－	1	57	1	－	13	105	88	1,230	3	72	4.1
7 年	73	65	－	－	1	64	2	－	6	7	0	1,496	5	68	6.8

(2)　出火原因

主な出火原因と死傷時の状態別をみたものが表 6-3-2 です。

表 6-3-2　主な出火原因と死傷時の状態別状況

区分	合計	主な出火原因 ガステーブル等	ロウソク	電気ストーブ	大型ガスこんろ	ライター	たばこ	花火	たき火	その他	死傷時の状態 家事従事中	作業中	初期消火中	火遊び中	就寝中	採暖中	休憩・休憩中	見物中	その他・不明
火災件数	73	34	7	3	3	3	2	2	1	18									
死者（人）	5	1	－	1	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	1	－	－	－	4
負傷者（人）	68	33	7	2	3	3	2	2	－	16	30	17	4	2	2	2	1	1	9

⑶　火災による死傷者

着衣着火火災の死傷者 73 人を受傷程度別でみたものが表 6-3-3 です。

表 6-3-3　程度別受傷状況

区　　分	合　計	死　亡	重　篤	重　症	中等症	軽　症
合　　計	73	5	5	12	17	34
高齢者以外	33	1	0	1	10	21
高　齢　者	40	4	5	11	7	13
高齢者の占める割合(%)	54.8	80.0	100.0	91.7	41.2	38.2

○　主な出火原因別の上位２位をみると、ガステーブル等が 34 件（46.6%）と最多、次いで「ロウソク」、が７件（9.6%）発生。

○　死者が発生した主な出火原因は、「ガステーブル等」、「電気ストーブ」及び「たき火」でそれぞれ１名発生。

○　死傷者をみると、高齢者が 40 人（54.8%）発生。